

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和6年2月28日発行 文責 校長 中尾 聡彦

児童生徒総会、能登半島地震の被災地への思いを紡いだ募金活動

2月16日(金)の5・6時間目に「第7期児童生徒総会」が行われました。

今期のスローガンは「友輝共進(ゆうききょうしん)」で「友に輝き、共に進む」という願いが込められています。

目指す公約は「1 自分らしさを発揮できる場を作る」「2 楽しみだと思える時間を増やす」の2つです。この公約に基づき、児童生徒会本部、総務委員会、健康委員会、美化委員会、文化委員会がそれぞれ年間活動計画を発表しました。質疑では、活動の詳細を問うものが多くあり、今後の具体的な活動へとつながっていきそうです。

児童生徒総会を閉会した後、1月から方策を練っていた「能登半島地震の被災地への支援」について児童生徒会本部から募金の呼びかけがありました。被災地の現状をスライドで示しながら、同年代の児童生徒の様子を紹介し、募金を呼びかけました。中でも、被災地の受験生に思いを馳せ、切々と語る場面では、私自身、目が潤みました。単に、「他の学校もやっているから…」「先生から言われたから…」ということで募金活動をやってほしくない。イベント的なものではなく、被災地の方々へ思いを馳せ、その方々への思いを募金という形で送り届けるという目的をしっかりとって取り組んで欲しいと思っていたので、とても嬉しい時間になりました。5年生は授業参観の日に、稲作体験で収穫した米を販売し、益金を被災地支援のために募金してくれました。



児童生徒会の呼びかけ

2/19 から 2/22 の4日間、石川県で起こった能登半島地震により被害に遭われた方々への支援として募金活動を行います。今も被災地では、家族や家、自分の町をなくした悲しさや辛さに耐えながら、厳しい生活を続けられている方々がたくさんいます。南波多郷学館全体で、石川県を支える一部になれるようご協力よろしくお願ひします。

令和5年度立志式

2月15日(木)の5・6時間目に「立志式(7年生)」がありました。

担任の思いもあり、会場である体育館は卒業証書授与式と同じように準備され、その会場に入るだけでも緊張するような雰囲気でした。

7年生一人一人が「立志の言葉」をステージ上で堂々と発表しました。緊張しながらも、原稿を見ることなく、精一杯発表する姿に心をうたれました。

その後、感謝の手紙を保護者に手渡し、保護者の方からはわが子へのメッセージを渡していただきました。親からもらった手紙を、涙を流しながら、嬉しそうに読む姿が印象的でした。このような場面だからこそ、お互いの思いを伝えることができたのではないかと思います。

7年生は、4月からステージ3へと進みます。一層の活躍を期待しています。そして、自分の「夢」の実現のために一歩ずつ前進して欲しいと思います。

伊万里市小中学校連合 PTA 現地研究発表会「育友会活動 with ^{ふるさと} 故郷」

2月17日（土）に「伊万里市小中学校連合 PTA 現地研究発表会（現地研）」が本校で行われました。この現地研は、市内の学校を中学校区で分け、当番校がその中学校区での育友会活動を発表し、交流を深めていくものです。

この現地研のために、夏ごろから前田育友会長をはじめ、執行部役員は膨大な資料を収集し、本校の特色であるコミュニティ・スクールというテーマで整理していかれました。その成果として、当日配付された資料（9ページ）が完成しました。紹介された育友会活動と学校行事は次のとおりです。

①南パタピカリン大作戦、②除草作業、③新制服、④おは梨の木、⑤お米の魅力を伝えよう（稲作体験）、⑥タイワンツバメシジミ保存活動、⑦南波多こども教室、⑧川柳教室、⑨ふるさとを学ぶ「ふるさと探訪」、⑩文化発表会、⑪あいさつ運動、⑫広報誌「郷の風」の発行

質疑の中では、これだけの活動を育友会や地域と学校が連携しながら展開していることへの驚きと、他校においては、除草作業一つをとっても参加者の減少などが見られるという切実な悩みも出されました。

コミュニティ・スクールとは、「地域と共にある学校」です。本校は、育友会、地域に支えられている学校であることを改めて確認できた発表会でした。

発表の後は、原屋敷の岩永孝雄様に、本校の魅力ある教育活動である「川柳教室」を再現していただきました。岩永様のあたたかく、ユーモアにあふれた語りのおかげで、参加者は川柳の虜（とりこ）になりました。また、終盤には、保護者やご家族の方々に募集した川柳の審査結果も発表されました。川柳教室は、今年で15年目を迎えます。これからも大事にしていくべき魅力ある教育活動であると思いました。

最後に、現地研を締めくくっていただいたのは「府招浮立」です。太鼓を中心に場の設営が済むと、会場は独特の雰囲気になりました。児童生徒が演じる3つの演目を披露していただきました。児童生徒の真剣なまなざしと、精いっぱい演技、そして演技を支える地域の方々に参加者は感動し、涙を流す方もいらっしゃいました。この府招浮立を継承されてきた地域の方々の思いと伝統の重みを間近で感じる事ができた貴重な時間でした。

参加者からは、「今日は来てよかったです。南波多郷学館のよさや、地域の方々の学校に対する思いを感じることができました。自分の学校を見直すいい機会になりました。」という声や、「最近学校への批判が多い中、学校を支える保護者や地域の力が今こそ必要だと思いました。何かうらやましい気持ちになりました。」という声が聞かれました。

現地研に向けて、準備を進めてこられた役員の皆様、寒い中、早朝から駐車場の整理に立ってくださった役員の皆様、川柳教室の岩永様、府招浮立保存会の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。そして、今後ともどうぞよろしく願います。

